

ニュース

横浜港新山下埠頭計画について

現在京浜港において実施されている港湾工事は相当大規模なものに限定しても決して少なくはない。特にそのうちでも大型船に対する接岸施設、すなわち大型繫船岸が数箇所を並行して建設途上にあることは日本全国いずれの地方にも例を見ない姿と云えよう。これも大阪港、神戸港と対応した我国の表玄関である京浜港の重要性を如実に物語るものである。しかもそれ等の施設の完成の暁にも、なおつきつぎに近代施設の拡張、改良を必要とすることは、京浜港の港内泊地に碇泊して不経済な沖荷役を余儀なくされている数多くの巨船の姿を一見すれば明白な事実となる。

ここに現在京浜港において実施されている大型繫船岸の建設工事を列挙するならば次のとおりである。

- 1) 東京港晴海埠頭 (水深 9 m, 2 バース)
- 2) 川崎港 9 m 棧橋 (水深 9 m, 1 バース)
- 3) 横浜港農林省サイロ棧橋
(水深 10 m, 1 バース)
- 4) 横浜港出田町埠頭 (水深 7.5 m, 2 バース)
- 5) 横浜港高島 3 号棧橋 (水深 10 m, 2 バース)

以上のうち東京港晴海埠頭は東京都、横浜港出田町埠頭は横浜市が直接その建設に当り、それ等以外の 3 箇所の建設工事は運輸省第二港湾建設局がその任に当り、京浜港工事事務所が実際に建設に従事している。筆者の直接担当している後者の工事についてさらに筆を加えるならば、川崎港 9 m 棧橋は昭和 27 年度以

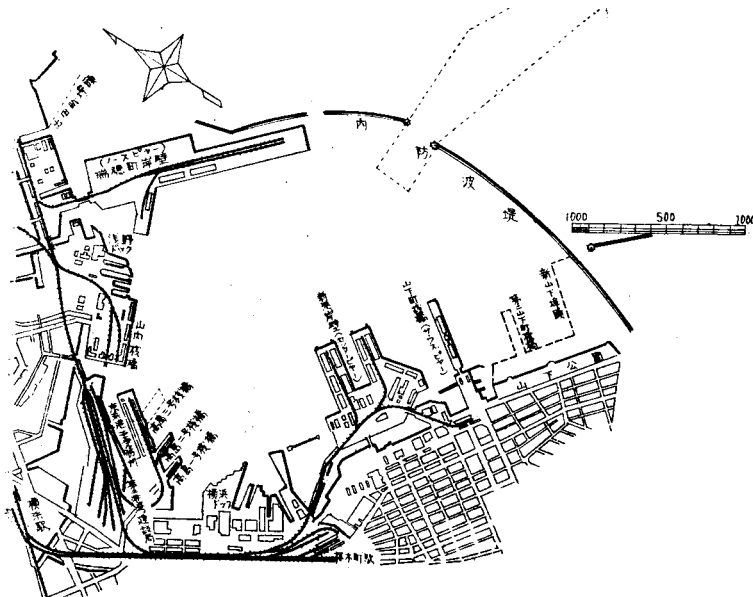
来公共事業として実施し 29 年度には完成の予定である。横浜港農林省サイロ棧橋は農林省所管食糧管理特別会計より経費が支出され、棧橋建設工事を農林省より運輸省に委任されたもので、昭和 28 年度に着工し 29 年度に完成の予定である。また横浜港高島 3 号棧橋は昭和 27 年度公共事業として着工し、その後安全保障諸費よりも経費の支出を見て 28 年度中に完成することとなっている。

前に述べたごとく、戦前以上の活況を呈し巨船が続々と入港する京浜港においては、このように港湾施設の建設が盛んに実施されていることも当然のことであるが、特に横浜港においてその感の強いのは理由のあることであつて、これに一言触れておく必要がある。すなわち戦後の横浜港はその本来の性格と異なる特殊な用途を有せざるを得なくなつた。つまり横浜港の主要大型船埠頭は軍事目的のために専用され、現在に至るも未だノースピヤール (水深 10 m 5 バース、及び水深 9 m 2 バース) 及びセンターピヤールの専用は存続している。このために一般商港施設としての大型船埠頭は極端な不足を来し、国の施策としてもこの救済が採り上げられ、前記の出田町埠頭及び高島 3 号棧橋の建設のために安全保障諸費より経費が支出され、軍専用施設の代替施設を建設するに至つた。軍の専用は遠からずノースピヤールのみになる予定であるが、この場合でも水深 10 m 岸壁 5 バース、水深 9 m 岸壁 2 バース、合計 7 バースは依然として一般商港施設としての利用価値を失う。しかもこれの代替施設として建設中の施設は水深 10 m 埠頭 2 バース (高島 3 号棧橋) 及び水深 7.5 m 岸壁 2 バース (出田町埠頭) に過ぎない。このためさらに代替施設を建設することとなり昨年

年末新山下埠頭、水深 10 m 1 バースを建設すべく、安全保障諸費よりその経費が支出されることとなつた。

新山下埠頭は横浜港内防波堤南側基部にあつて、横浜港の内港として埠頭を新たに建設するための位置として残された唯一のものである。すなわち図-1 に示すとおり、新山下埠頭 (水深 10 m 岸壁 1 バース、水深 12 m 岸壁 1 バース) 及び第 2 山下町棧橋 (水深 12 m 棧橋 2 バース) が横浜港の内港の将来計画として計画されているが、今回着工に至つたのはそのうち新山下埠頭の水深 10 m 岸壁 1 バースである。予算総額は (29 ページへ続く)

図-1 京浜港平面図



記 事

◎第9回理事会(昭.29.2.18) 出席者: 福田, 菊地 両副会長, 兼重, 榎, 中島, 佐島, 坂本, 篠原, 最上の各理事。議事: 1) 1月中行事その他報告, 2) 総会, 懇親会について, 3) 第10回年次学術講演会について, 4) 見学会について, 5) 夏季講習会は新工法と新材料を目的として計画すること, 6) JSC 力学連絡委員会委員改選候補者として本間仁, 岡本舜三, 最上武雄, 奥村敏恵の4君を推薦のこと, 7) 国際会議代表について, 8) 委員会の委員追加(コンクリート構造物委員に星野陽一君), 9) 昭和28年度決算見込額及び29年度予算案について, 10) ECAFE の Water Resources Development 大会を本年5月東京で開催について, 11) 土木用語集出版について, 12) 会員入退会について。

◎各種委員会

1. 編集委員会(昭.29.2.23) 出席者: 岡本, 佐島 正副委員長, 村山(代岩井) 関西地方委員, 丸安, 寺西, 鈴木, 小松原, 菊池各委員, 中川書記長, 徳平幹事。議事: 1) 会誌及び論文集進捗状況報告, 2) 投稿論文及び新規受付論文審査委員の決定, 3) 39巻4号 登載論文を次のとおり予定。

本間仁: 国際水理学会 1953年大会報告, 石原藤次郎: アメリカの大学, 研究所を訪ねて, 高田昭: アメリカのダム所見, 深谷俊明: 断面及び径間を異にする3径間連続バリアに対する曲げモーメントの一般的傾向(前号より繰越), 丹羽義次: 高速度遠心力光弾性実験について, 梶原光久: 層状軟弱地盤の圧密沈下の近似計算法, 山田順治: 鉄筋コンクリートはりの龜裂強度について, 山口柏樹: 粘弾性体の対称的荷重による変形挙動について, 須之内文雄: 「土木」という名称を再検討すべき時期。

4) 論文集 19号登載論文を次のとおり予定。

加賀見一二三: 鉄筋コンクリート梁の破壊強度, 並びに許容設計に関する研究, 村山朔郎・谷本喜一: 粘土層振動圧密の理論, 小田英一: 塑性体としての水平層を有する地山中のトンネル応力について, 岡元北海: 弾性梁に支持される連続版の解法並びに弾性梁の振りモーメントが連続版に及ぼす影響について, 新郷高一: The wave velocities of transvers vibrations of rectangular thin plates, considering Rayleigh's rotary moment of inertia and Timoshenko's effect of shear.—Addendum to the studies on rectangular plates—, 新郷高一: An exact method of solving the linear simultaneous equations with the principal diagonal coefficient and those adject to them only, 石原藤次郎・岩垣雄一・岩佐義明: 急

斜面上の層流における転波列の理論——薄層流に関する研究(第5報)——。

(5) 39巻2号討議依頼先の決定, (6) その他。

2. 抄録委員会(昭.29.2.9) 出席者: 森委員長, 樋口, 林, 久保, 平嶋, 松本, 中村の各委員, 千秋抄録幹事, 徳平編集幹事。議事: 第39巻3号抄録として6篇を決定, 繰越7篇, 新規15篇につき協議した。

3. 第1回鋼鉄道橋設計示方書委員会(昭.29.2.4) 出席者: 田中委員長, 青木, 沼田, 福田, 成瀬, 平井, 奥村, 友永, 高坂, 多田の各委員, 西村, 菊池, 田島, 大宮の各幹事, 議事: 福田副会長が会長に代り委員会設置について挨拶あり, 田中委員長挨拶の上, 身体の都合で欠席する場合は沼田委員に副委員長としてお願いすると述べ, 友永委員委託者側として挨拶の後議事に入る。1) 西村幹事改正せんとする要点を逐条説明, 2) 田中委員長から改正要点の大綱に関する意見, 3) 4月末までにまとめた希望了承, 4) 次回は2月19日開催のこと。第2回同委員会(昭.29.2.19) 出席者: 田中委員長, 沼田, 青木, 福田, 成瀬, 平井, 奥村, 友永, 高坂(代), 多田の各委員, 川口, 西村, 菊池, 田島, 大宮, 橋本の各幹事。議事: 示方書原案第1条から第8条まで審議。

4. 第2回コンクリート鉄道構造物委員会(昭.29.2.8) 出席者: 吉田委員長, 沼田, 最上, 高橋, 友永, 高坂(代浜), 星野の各委員, 川口, 深谷, 田村, 三浦(代杉木), 白石, 山内, 杉田, 西村の各幹事。議事: 1) この設計基準が鉄道自体のものなることを明白にするため標題を“昭和 年 月 日総裁達第

号無筋コンクリート及び鉄筋コンクリート構造物設計基準とすること, 2) 第7条まで逐条審議, 3) 委員に星野陽一君を追加すること。第3回同委員会(昭.29.2.26) 出席者: 吉田委員長, 沼田, 高橋, 友永, 国分, 丸安, 星野, 高坂, 本間の各委員。川口, 深谷, 田村, 西村, 白石, 山内, 樋口の各幹事。議事: 1) 第8条~第10条を審議, 2) 小田仁君(国鉄建設部工事課長)を委員に追加のこと。

5. 第12回プレストレスト コンクリート委員会(昭.29.2.8) 出席者: 吉田委員長, 海上, 川口, 川崎(代宮崎), 国分, 菅原, 田中, 田村, 田原(代池田), 沼田, 深谷, 宮崎, 村田, 山崎, 山田, 渡辺(代木村), 内山, 友永の各委員。議事: 1) 原案第29条審議。第13回同委員会(昭.29.2.26) 出席者: 吉田委員長, 猪股, 海上(代白木), 木村(代), 川崎, 国

分、近藤、田原、友永、深谷、宮崎、齋島、樋口、山崎、山田（代池田）、渡辺の各委員、川口、田村両幹事。議事：1) 第30条～第36条逐条審議。

6. 海外連絡委員会（昭.29.2.9）出席者：田中委員長、石原、千秋、立花、本間、平井の各委員、議事：各国際学会会議に出席する代表者について打合せた。

7. 第3回橋梁構造委員会（昭.29.2.11）出席者：田中（五）、田原、友永、成瀬、平井の各委員、川崎、菊池両幹事。議事：1) 昨年11月28日JSC橋梁構造工学研究連絡委員会の決定事項について平井委員から説明があり2月号にこれを登載する案について検討した（前月号参照）。2) 第2回委員会で選定した橋梁工事写真は福田委員長から英国へ送つたが間に合わなかつたので他の適当な雑誌に照会するとの回答に接した。3) 1956年大会にはVibrationを採り上げることであるから今から準備する必要がある。4) プレストレストコンクリート研究会を開くに当り委員追加の要あり、国分正胤君外2～3名追加し、人選は国分氏と協議のこと。

8. 土木用語委員会（昭.29.2.12）出席者：福田委員長、浅野、飯塚、井口、岡田、扇田、曾山、水越、村（代）、森、山田、久保の各委員。議事：1) 福田委員長から文部省学術用語分科審議会の経過報告、2) 同審議会の総合調整部会における調整の結果、従来の土木用語原案と異なつたもの134語について再審議の結果訂正した。3) 3月20日までに用語集を出版した上で最後の委員会を開催すること。

9. 土木賞委員会（昭.29.2.22）出席者：吉田委員長、坂本、千秋、本間、町田、松村（代田原）、最上、石原（代岩井）、庄司、福田、岡本の各委員及び関係編集委員、議事：1) 前回で編集委員会に下調方委任してからの経過を岡本編集委員長から説明、2) 選定した候補論文の推薦理由を岡本委員から説明、なお詳細質問に対し、それぞれ担当編集委員から説明、3) 学会賞2編、奨励賞2編を各委員選定投票の下次回席上で開票決定のこと。

◎その他

1. 土木賞推薦理由打合せ（昭.29.2.1）出席者：岡本委員長外各編集委員、協議事項：各論文の推薦理由書の打合せを行った。

2. 40周年記念事業打合せ（昭.29.2.17）出席者：平井会長、福田、菊池両副会長、金子、米田、本間の各委員長、兼重、榎、中島、中路、片平、佐島、篠原、坂本（代森）の各理事、議事：1) 福田副会長、会長に代り挨拶の後、兼重理事から40周年記念事業として計画した各事業の概要説明、2) 記念事業委員会菊

池委員長より記念事業の概略を述べ、なお各種委員会の性格を説明、3) 会長出席各委員長に挨拶、4) 原案の委員氏名について各委員長から説明、①土木会館建設委員会金子委員長：まず土地を得ることが先決問題と考え関係のありそうな方を委員にお願いしたい。幹事には五十嵐醇三君に依頼したい、②土木工学論文抄録委員会本間委員長：まだ各委員候補の了解を得ていないが大体この程度の人々をお願いしたい、29年度内には完成の見込み、③工事写真集委員会米田委員長：各部門別に委員を選んで、すつきりしたものを記念式典までに完成したい。④土木史委員会鈴木委員長欠席されたが各部門の長老と、実際まとめる若い人とを委員とし、地方に地方委員を設ける。幹事の人選は委員長に一任。

支部だより

◎北海道支部 コンクリート講習会を支部主催にて、昭和29年2月18日、19日の2日間にわたり、受講料350円で（テキスト代を含む）北海道大学工学部205号教室にて開催した。

当日受講者は300名の多きに達し、非常に盛会であり、内容充実して最近にない立派な行事であつた。伊藤健二幹事の開会の辞、藤田峻五幹事長の挨拶、前田幸雄幹事の受講上の注意があつて後、講習を次のごとく開始し、羽島栄治幹事の閉会の辞をもつて終了した。科目及び講師は次のごとくである。

1. コンクリートの概論と最近の趨勢
北大工学部教授 工学博士 横 道 英 雄
2. コンクリートの施工及び施工機械
北海道開発局土木試験所長 久 世 秀 明
3. プリキャスト コンクリート橋について
北海道開発局土木試験所技官 岡 元 北 海
4. コンクリートの配合設計及び試験について
北大工学部 前 田 直 方
5. 寒中コンクリート
北大工学部教授 工学博士 板 倉 忠 三
6. A.E.コンクリートについて
北海道開発局土木試験所技官 林 正 道
7. 道路工事に使用される固練コンクリート及び
貧配合コンクリートについて
北海道開発局札幌開発建設部技官 武 山 広 志
8. 桂沢堰堤コンクリート工事について
北海道開発局桂沢堰堤建設事務所長 津 田 賢 次
9. 福山線大松前川橋梁橋脚補強工事について
国鉄札幌工事事務所 看 倉 英 明

◎西部支部 第13回幹事会（昭.29.2.11）出席者：山東幹事長、山崎、天方、和田、下津、乙藤（代）の各幹事。議事：1) 昭和28年度支部総会を2月27日

(土) 九電ビルで開催について, 2) 昭和 29 年度支部役員選挙方法及び候補者について, 3) 会員倍加運動について, 4) 西日本水害調査について, 5) その他, 第 14 回幹事会 (昭.29.2.23) 出席者: 田中支部長, 山東幹事長, 山崎, 佐田, 乙藤, 和田, 上田, 下津の各幹事外九電より 1 名, 議事: 昭和 28 年度支部総会について, 2) 昭和 28 年度会計報告, 3) 昭和 28 年度支部会員名簿発送について, 4) 西日本水害研究委員会の次年度繰越について, 5) 昭和 29 年度役員について, 支部総会 (昭.29.2.27) 参加者約 100 名, 順序: 1), 映画 (宇部港岸壁工事, 白川の排土作業, 伊

之浦橋架設工事, 上樵葉アーチダム工事篇, フーバーダム (物語), 2) 総会次第: 開会の辞 (山東幹事長) 支部長挨拶 (田中支部長), 昭和 28 年度事業及び会計報告, 昭和 29 年度役員改選, 新支部長挨拶 (熊川信之君), 閉会の辞 (田代新幹事長), 3) 演芸 (博多にわか, 曲芸), 4) 懇親会: 総会終了後午後 5 時より支部役員一般会員を交え約 50 名にて開催, 田中支部長, 熊川新支部長の挨拶, 九州大学鷹部屋教授, 元支部長松尾守治氏, 元福岡土木部長坂本一平氏, 九州地建伊藤剛局長, 三池鉱業所森田定市氏等のテーブルスピーチがあり和気霽々裡に散会した。

技術ノート欄 新設について

現場でこんな方法をとつたらうまくいったとか, こんな方法で実験したらいい結果がえられたとか, 現場の人や研究する人に役に立つと思われる記事を, 気楽に紹介する欄をもうけることにしました。

この欄を, 会員の実際に役立つ欄とするために, そして会誌に一層したしみのもてるようにするために, 会員諸氏が十分活用して下さいをお願いします。

(編集部)

昭和 29 年 2 月分入退会報告 (29.2.1~2.28 現在)

1. 入 会 159 名 (特 3 級 1, 正 52, 准 66, 学生 40)
2. 退 会 19 名 (正 6, 准 13)
3. 転 格 16 名 (准より正 16)

会 員 現 在 数 (29.2.28 現在)

名誉員	賛助員	特別員	1 級	2 級	3 級	正 員	准 員	学生員	合 計	増加数
19	16	33	74	150	4 927	5 569	1 298	12 086	140	

昭和 29 年 3 月 10 日 印刷 土木学会誌 定価 100 円
昭和 29 年 3 月 15 日 発行 第 39 巻 第 3 号

編集兼発行者 東京都千代田区大手町 2 丁目 4 番 4 地 中 川 一 美
印刷者 東京都港区赤坂溜池 5 番地 大 沼 正 吉
印刷所 東京都港区赤坂溜池 5 番地 株式会社 技 報 堂

東京中央郵便局区内 千代田区大手町 2 丁目 4 番地 電話和田倉 (20) 3945 番
4078 番

発行所 社団法人 土 木 学 会 振替東京 16828 番